

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	木谷實・星のプラザ資料収集事業		
事業担当	市民部 文化・交流課		
予算科目	01-030106-180000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等	文化芸術振興基本法		
対象・受益者	市民	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 平塚市文化財団】		
目的・目標		事業の概要	
故木谷實九段とその一門や囲碁文化の魅力を紹介する資料を収集することにより、囲碁を通じた参加・交流・情報発信などが行われています。		囲碁文化の振興を図るため、故木谷實九段とその一門の足跡や人物像の紹介、囲碁を通じた参加・交流・情報発信などの資料を収集します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	収集資料調査件数						単位	件
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		3	5	5				
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	資料提供協力件数						単位	件
	説明・算定式	—							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		2	4	4				
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	③：遅れている								
	遅れている理由	事業活動が十分に出来なかった。							
平成20年度の主な取組と成果									
日本有数の囲碁コレクターである水口藤雄氏より、木谷記念館に役立ててほしいとのことで、囲碁にまつわる錦絵、古書等の資料が寄贈されました。									
平成20年度の検証結果	C：十分に成果をあげることができなかった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	市民ニーズや「文化芸術振興基本法」による規定、文化振興の安定性、継続性の確保の観点から必要性は高い。	● 高 ○ 低
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	事業展開の改善を図りながら、有効性を高めていくことが必要です。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	本市の貴重な文化資源である囲碁文化の普及、振興の観点から目的、対象、内容ともに妥当性は高い。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業経費は、更なるコスト削減に取り組む必要があります。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。また、成果目標の資料提供件数は、提供者側の意思にかかっているため、協力を得るための方策等について検討が必要です。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			資料の収集	資料の収集	資料の収集	資料の収集		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	398	316	633	633	0	0
事業費 (A)		0	398	316	633	633	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.50	0.50	0.45	0.45	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.05	0.05	0.00	0.00
人件費 (B)		0	4,196	4,196	3,933	3,933	0	0
フルコスト (A+B)		0	4,594	4,512	4,566	4,566	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 故木谷實九段とその一門の功績の顕彰と囲碁文化の普及促進を目的として、引き続き事業継続していく。なお、一門の高齢化に伴う囲碁資料の散逸等の要因から積極的に事業実施していきます。	
平成22年度の取組方針	
今後も、効率的な事業実施の検討や事務経費の見直しを行い、事務事業として継続していきます。	
課長コメント	故木谷實九段とその一門の功績の顕彰と囲碁文化の普及促進を目的として、引き続き事業継続していきます。なお、一門の高齢化に伴う囲碁資料の散逸等の要因を勘案し、日本棋院及び木谷門下会の協力を仰ぎ実施していきたいと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	③：遅れている
主な取組と成果		日本有数の「囲碁コレクター」として知られる水口藤雄氏より木谷記念館に役立てて貰いたいとのことで、囲碁資料約1万点が寄贈されるなど大きな成果があがった。	日本有数の囲碁コレクターである水口藤雄氏より、木谷記念館に役立ててほしいとのことで、囲碁にまつわる錦絵、古書等の資料が寄贈されました。
検証結果	—	A：成果があがった	C：十分に成果をあげることができなかった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組む。	必要性、有効性、妥当性、効率性の総合評価は高い。効率性の部分で、事務経費は更なるコスト削減に取り組みます。また、成果目標の資料提供件数は、提供者側の意思にかかっているため、協力を得るための方策等について検討が必要です。
事業の方向性	—	拡大して継続	現状の規模で継続
取組方針		今後も、効率的な事業実施の検討や事務経費の見直しを行い、事業効果を高めていく必要がある。	今後も、効率的な事業実施の検討や事務経費の見直しを行い、事務事業として継続していきます。
事業区分	—	実施計画事業	事務事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	図書館に来館しづらい方や子どもたちが図書にふれる機会が増えることから、訪問施設からのニーズはあります。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	継続して実施することにより、訪問施設も増え、図書館に来館しづらい方や子どもたちが図書にふれる機会も増えます。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	実績のある施設以外にも再度周知し、訪問箇所を増やすことで更に妥当性が高くなります。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	出前図書館利用者が手にした図書は、施設で回収し、期限になると図書館で引き取りにしているが、施設職員の負担が大きくなっています。	<input type="radio"/> 高 <input checked="" type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低	
今後に向けた課題の分析 訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増えます。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底する必要があります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			児童施設などの訪問、図書などの貸出し	児童施設などの訪問、図書などの貸出し	児童施設などの訪問、図書などの貸出し	児童施設等の訪問、図書等の貸出し	児童施設等の訪問、図書等の貸出し	児童施設等の訪問、図書等の貸出し
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	804	700	630	630	630	630
事業費 (A)		0	804	700	630	630	630	630
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.15	1.15	1.20	1.20	1.20	1.20
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	9,650	9,650	10,028	10,028	10,028	10,028
フルコスト (A+B)		0	10,454	10,350	10,658	10,658	10,658	10,658

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="radio"/> 現状の規模で継続 <input type="radio"/> 拡大して継続 <input type="radio"/> 縮小して継続 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 他事業と統合	
<判断理由> 固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底を図ることにより、訪問施設を拡大して実施します。	
平成22年度の実行方針	
「あおぞら号」と連絡車(軽自動車)で施設訪問を行うことで、多少のスペースがあれば実施可能となるので、受入施設(訪問施設)を拡大して実施します。	
課長コメント	訪問施設を広げるとともに、施設に適した車(「あおぞら号」、軽自動車)で巡回を行い、事業を拡充しようと考えています。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	②：若干遅れている
主な取組と成果		実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に16施設からの希望を受け実施したことにより、子どもたちが図書に触れ合う機会を増やすことができた。	実施に当たり市内幼稚園・保育所・入所施設・ろう学校に周知することにより希望を募り、市内幼稚園・保育所を中心に10施設からの希望を受け実施したことにより、子ども達が図書に触れ合う機会を増やすことができました。
検証結果	—	A：成果があがった	B：おおむね成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増える。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底する必要がある。	訪問施設を広げることで巡回回数も増え、更に貸出点数も増えます。今後は、固定した訪問施設以外に枠を広げられるように周知徹底する必要があります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		平成19年度は「あおぞら号」にて出前をしていたが、今後連絡車（軽自動車）に変えることで、受入施設側としても多少のスペースがあれば実施可能となるので、受入施設（訪問施設）を拡大して実施していく。	「あおぞら号」と連絡車（軽自動車）で施設訪問を行うことで、多少のスペースがあれば実施可能となるので、受入施設（訪問施設）を拡大して実施します。
事業区分	—	実施計画事業／行政改革事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	ブックスタート事業		
事業担当	社会教育部 中央図書館		
予算科目	01-100503-020000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	01	基本目標 1 豊かな心をはぐくみ、よろこびとふれあいにあふれたまち	
	02	②〈感性〉 生涯学習や文化などを通じ、豊かな感性をはぐくむ	
	03	3 幅広い芸術・文化活動を普及・促進する	
根拠法令等			
対象・受益者	平塚市内在住の1歳未満の乳児・保護者	事業期間	
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： ブックスタートボランティア】		
目的・目標		事業の概要	
絵本を通して豊かな子どもの心を育て、親子の絆が養われています。		絵本を通して豊かな子どもの心を育て、親子の絆を養うため、地域のすべての赤ちゃんと保護者に、「赤ちゃん絵本を楽しむ時間の大切さ」を伝えながら、絵本を直接手渡します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ブックスタート実施回数						単位	回
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		38	42	43	44	45	45	
	実績		42	43					
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	ブックスタートに参加した乳児の割合						単位	%
	説明・算定式	参加した乳児数÷乳児総数×100							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		50	50	50	55	55	56	
	実績		44.6	47.3					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しませんでした。個別配布の案内書の内容をわかりやすくするとともに、事前申し込み不要の日を決めて実施をしました。個別渡しも12組と着実に参加者が増えつつあり、成果はあがっています。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価		
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	実施により「赤ちゃんと絵本を楽しむ時間の大切さ」を体験していただき、豊かな心を育てられることから、必要性は高いです。 常に対象者が発生してくるものなので、性質上継続して実施することで、着実に参加者も増えています。 対象については、1歳未満の乳児とその保護者を対象とするが、この時期だからこそ乳児、保護者にとっても普及啓発を図る必要があります。 ボランティアを募集し協働で実施している。今後、ボランティアを組織化し、活動内容・役割分担などの一層の連携を目指します。
今後に向けた課題の分析 ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。						

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実	ブックスタートの開催、赤ちゃん文庫の充実
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	3,279	3,045	2,652	3,168	3,168	3,300
事業費 (A)		0	3,279	3,045	2,652	3,168	3,168	3,300
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.75	1.75	1.25	1.25	1.25	1.25
	再任用 (人)	0.00	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
人件費 (B)		0	14,856	14,856	10,618	10,618	10,618	10,618
フルコスト (A+B)		0	18,135	17,901	13,270	13,786	13,786	13,918

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 常に参加対象者が発生するため、継続して普及啓発をしていく必要があります。	
平成22年度 of 取組方針	
ボランティアと協働し、事業展開を図ります。	
課長コメント	個別対応の実施や申込方法の見直しなどを行った結果、参加率が増加した。今後も日曜日開催や移動図書館車の対応などで、参加率向上を図ります。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しなかったが、予定どおり開催するとともに、個別渡しも15組と着実に参加者が増えつつあり、成果があがっている。	ブックスタートに参加した乳児の割合は、目標値に達しませんでした。個別配布の案内書の内容をわかりやすくするとともに、事前申し込み不要の日を決めて実施をしました。個別渡しも12組と着実に参加者が増えつつあり、成果はあがっています。
検証結果	—	B：おおむね成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深める。	ボランティアと協働して組織化・分担などについて一層の連携を深めます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		ボランティアと協働し、事業展開を図る。	ボランティアと協働し、事業展開を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	地域の自然や歴史への興味関心にこたえとともに、市民と協働して未来に残すべき自然環境、歴史遺産等の必要性を説く必要もあります。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	教育普及活動は継続していくことで地域の変化を理解したり、語り継ぐべきことを伝える機能があります。学校教育の内容に合わせたり、地域防災などの関心の高いテーマに合わせた取組など市民満足度は高いです。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input checked="" type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input checked="" type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館を目指して多くの事業を市民と協働して事業を進めて、成果をあげています。各分野1名ずつの学芸員体制は必要とされるところです。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	事業の効率的な推進のために研究活動などで集められた情報を管理運用する独自システムを運用しています。これにより多種にわたる活動で情報共有を可能にしています。	○ 高 ● 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

調査活動での市民との協働を進めます。さらに展示、普及活動などでの協働も深め、博物館と市民との情報共有に努めます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	567	842	306	310	310	310
	一般財源	0	31,565	24,837	23,388	26,690	26,690	26,690
事業費 (A)		0	32,132	25,679	23,694	27,000	27,000	27,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	3.85	3.85	3.85	3.85	3.85	3.85
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	32,306	32,306	32,171	32,171	32,171	32,171
フルコスト (A+B)		0	64,438	57,985	55,865	59,171	59,171	59,171

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 体験学習、各種講座など教育普及活動の実施を継続的に実施するとともに、国内外の動きに応じた事業展開を図ります。	
平成22年度取組方針	
体験学習、各種講座など教育普及活動の実施を継続的に実施するための調査活動の充実と行事内容の見直し、充実に努めます。国内外の動きに応じた事業展開を図ります。	
課長コメント	普及事業の推進と市民との協働を展開することで、市民力・地域力を上げ、活力あるまちづくりに貢献できるものと考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館を目指して、特別展示室、講堂、科学教室、プラネタリウム室等を活用して事業を展開するとともに、野外教育活動、広報、出版活動等の充実を図った。プラネタリウムの投影は、市民向けに隔月にテーマを変え、幼児投影、学習投影を市内外の保育所・幼稚園、小学校の利用にも応じて開催した。「銀河鉄道の夜」の上映が大好評を博した。演劇公演2回、ライブコンサートを開催し、好評だった。	教育普及活動に重きをおいた新しい地域博物館を目指して、特別展示室、講堂、科学教室、プラネタリウム室等を活用して事業を展開するとともに、野外教育活動、広報、出版活動等の充実を図りました。プラネタリウムの投影は、市民向けに隔月にテーマを変え、幼児投影、学習投影を市内外の保育所・幼稚園、小学校の利用にも応じて開催しました。演劇公演2回、ライブコンサートを開催し、好評でした。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		学芸員の世代交代がある際に、地域情報の受け渡しが円滑にできるシステムの構築を考え、そのなかで効率的に教育普及活動を推進する必要がある。	調査活動での市民との協働を進めます。さらに展示、普及活動などでの協働も深め、博物館と市民との情報共有に努めます。
事業の方向性	—	拡大して継続	拡大して継続
取組方針		体験学習、各種講座など教育普及活動の実施を継続的に実施する。世界天文年等、国内外の動きに呼应した事業展開を図る。利用される市民の要望にこたえていくため、老朽化したプラネタリウム施設の補修、更新を進めていきたい。	体験学習、各種講座など教育普及活動の実施を継続的に実施するための調査活動の充実と行事内容の見直し、充実に努めます。国内外の動きに呼应した事業展開を図ります。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	メニューによっては希望者が殺到し、要望にこたえるため回数を増やしました。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	美術教育活動への参加意識が強いため、メニューを充実させ、事業を継続して成果を上げます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	美術教育の普及促進と実践をするためにも必要な事業です。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	若手芸術家を活用して講座を充実させます。	○ 高 ● 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析		ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施します。		

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			ワークショップの開催	ワークショップの開催	ワークショップ、アートフェアの開催	ワークショップ、アートフェアの開催	ワークショップ、アートフェアの開催	ワークショップ、アートフェアの開催
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	839	1,751	1,724	1,800	1,800	1,800
事業費 (A)		0	839	1,751	1,724	1,800	1,800	1,800
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.65	1.65	1.25	1.25	1.25	1.25
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	13,846	13,846	10,445	10,445	10,445	10,445
フルコスト (A+B)		0	14,685	15,597	12,169	12,245	12,245	12,245

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> ワークショップ活動で製作した作品を発表・展示する市民協働のアートフェアを実施します。	
平成22年度 of 取組方針	
近隣の若手芸術家等を活用した講座を行います。	
課長コメント	団塊の世代を中心とした男性も参加しやすい講座を考慮します。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		ワークショップのメニューを増やして30回の講座を行ったが、親子対象の講座はどれも好評であった。	ワークショップのメニューを増やして47回の講座を行い、親子対象の講座はどれも好評でした。ワークショップ参加者の作品を展示・発表するアートフェアを開催し370人以上の観覧がありました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施する。	ワークショップメニューの充実と展覧会に関連した事業を実施します。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		近隣の若手芸術家等を活用した講座を行う。	近隣の若手芸術家等を活用した講座を行います。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。